

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

PAT-NO: JP411232354A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11232354 A
TITLE: COMMODITY TRANSACTION DEVICE, SYSTEM THEREFOR AND
STORAGE MEDIUM

PUBN-DATE: August 27, 1999

INVENTOR-INFORMATION:
NAME COUNTRY
TAKEKUMA, TOSHIYA N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
NIPPON STEEL CORP N/A

APPL-NO: JP10337421
APPL-DATE: November 27, 1998

INT-CL (IPC): G06F017/60, G06F019/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To attain efficient commodity transaction even in the case of selling many commodities by various means including cash sales such as an auction by providing the commodity transaction system with a transaction processing means for processing a reserved relative transaction based on purchase information, a transaction processing means for processing a reserved relative transaction based on selling information, and so on.

SOLUTION: Each trader side terminal equipment 400 has an information receiving/ distributing function 410, a user interface(I/F) function 420 based on a WWW browser or the like, a self-account management function 431 and a cooperative function 433 which are an application function, and a data storage function 440 necessary for various processing. There is a flow of transaction processing (A) based on order information, transaction processing (B) based on selling information and transaction processing (C) based on plural order information and plural selling information, and in the case of executing respective transaction processing or the like, each user accesses a server side by his own terminal equipment to display a top picture on the equipment. Then the user selectively specifies each item by a mouse or the like to execute the specified item.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-232354

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月27日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

G 0 6 F 17/60
19/00

G 0 6 F 15/21 3 3 0
15/24
15/28 B

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 22 頁)

(21) 出願番号 特願平10-337421

(22) 出願日 平成10年(1998)11月27日

(31) 優先権主張番号 特願平9-337545

(32) 優先日 平 9 (1997)12月 8 日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000006655

新日本製鐵株式会社

東京都千代田区大手町 2 丁目 6 番 3 号

(72) 発明者 竹熊 俊哉

東京都千代田区大手町 2 - 6 - 3 新日本
製鐵株式会社内

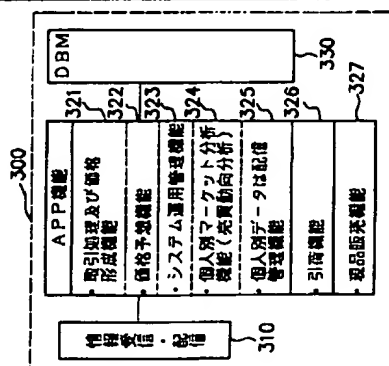
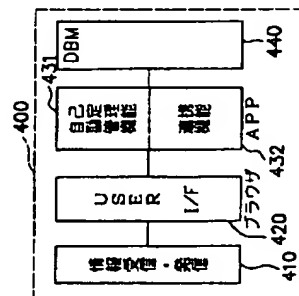
(74) 代理人 弁理士 國分 孝悦

(54) 【発明の名称】 商品取引装置、商品取引システム、及び記憶媒体

(57) 【要約】

【課題】 計画的な商品の生産及び販売、計画的な商品の調達を可能とすることで、大量な商品を競り等の現品販売を含む多様な手段で販売する場合であっても、効率的な商品の売買取引を可能とする商品取引システムを提供する。

【解決手段】 買手側及び売手側の各端末装置は、ホストと相互通信することで、買手側が発する購入情報に基づく予約相対取引の処理と、売手側が発する販売情報に基づく予約相対取引の処理と、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理と、各取引処理の実行で発生した販売残商品に対する取引の処理或いは上記各取引処理によらない販売のための取引の処理とを行うとを実行可能とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報情報に基づいて、商品の売買の成約を決定するシステムにおける上記複数の端末装置の少なくとも1つの端末装置であって、上記購入情報に基づく予約相対取引の処理を行う第1の取引処理手段と、上記販売情報に基づく予約相対取引の処理を行う第2の取引処理手段と、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて、双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理を行う第3の取引処理手段と、上記第1～第3の取引処理手段の少なくとも何れかの実行で発生した販売残商品に対する取引の処理、或いは、上記第1～第3の取引処理手段によらない販売のための取引の処理を行う第4の取引処理手段とを備えることを特徴とする商品取引装置。

【請求項2】 上記第4の取引処理手段は、上記第1～第3の取引処理手段による取引処理中或いは処理後に、上記販売残商品に対する緊急取引処理を行う手段を含むことを特徴とする請求項1記載の商品取引装置。

【請求項3】 上記第4の取引処理手段は、上記第1～第3の取引処理手段による取引処理或いは上記緊急取引処理の実行の前後或いは実行中に、特定される競りの対象商品の指定乃至管理を行う手段を含むことを特徴とする請求項2記載の商品取引装置。

【請求項4】 上記第4の取引処理手段は、上記第1及び第2の取引処理手段の実行で発生した販売残商品、又は、上記第3の取引処理手段の実行で発生した販売残商品に対する取引の処理を行うことを特徴とする請求項1記載の商品取引装置。

【請求項5】 上記第3の取引手段は、上記販売情報に含まれる商品に関する情報の任意の情報を取引条件として特定する特定手段を備えることを特徴とする請求項1記載の商品取引装置。

【請求項6】 上記第2の取引手段で発生した未成約商品の販売情報を、上記第3の取引手段での上記販売情報とする複写手段を備えることを特徴とする請求項1記載の商品取引装置。

【請求項7】 各取引処理を実行するためのアイコン機能を有する表示手段を備えることを特徴とする請求項1記載の商品取引装置。

【請求項8】 上記商品は、商品毎に想定される期間経過後には価値がなくなる、或いは、減少するものであることを特徴とする請求項1記載の商品取引装置。

【請求項9】 複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報から商品の売買の成約を決定する商品取引システムであって、上記複数の端末装置の少なくとも1つの端末装置は、請求項1～8の何れかに記載の商品取引装置であることを

特徴とする商品取引システム。

【請求項10】 複数の端末装置とホストが相互通信することで、上記複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報から商品の売買の成約を決定する商品取引システムであって、上記端末装置は、送られてきた情報をブラウザ機能により画面表示し、その画面上の情報に基づいて行われたユーザからの操作に従って情報を出力し、上記ホストは、上記購入情報に基づく予約相対取引の処理を行う第1の取引処理機能と、上記販売情報に基づく予約相対取引の処理を行う第2の取引処理機能と、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて、双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理を行う第3の取引処理機能と、上記第1～第3の取引処理機能の少なくとも何れかの実行で発生した販売残商品に対する取引の処理、或いは、上記第1～第3の取引処理機能によらない販売のための取引の処理を行う第4の取引処理機能とを有することを特徴とする商品取引システム。

【請求項11】 複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報情報に基づいて、商品の売買の成約を決定するための取引処理ステップを実行するプログラムを格納した記憶媒体であって、上記取引処理ステップは、上記購入情報に基づく予約相対取引の処理を行う第1の取引処理ステップと、上記販売情報に基づく予約相対取引の処理を行う第2の取引処理ステップと、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて、双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理を行う第3の取引処理ステップと、上記第1～第3の取引処理ステップの少なくとも何れかの実行で発生した販売残商品に対する取引の処理、或いは、上記第1～第3の取引処理ステップによらない販売のための取引の処理を行う第4の取引処理ステップとを含むことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば、花卉や青果物等のライフサイクルの短い生鮮商品や、有効期限のあるチケット等のサービス商品、使用日が限れた航空チケットのように、ある期間が過ぎてしまうと商品価値がなくなる或いは減少する各種商品の売買取引に用いられる商品取引装置、商品取引システム、及び該取引を行うための処理ステップをコンピュータが読出可能に格納した記憶媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】例えば、生花の売り買いの取引は、卸売市場で行われる。すなわち、買手業者は現場に出向き、売手業者が実際に販売している現物を観察し、どのよう

な生花がいくらかで販売されているか等を把握する。そして、希望する生花が販売されていた場合には、その売手と価格等を含めた取引を行う。このようにして、買手業者は、希望する生花を調達する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来では、上述したような生花等の商品の売買取引をシステム化したものはなかった。このため、次のような問題があった。

【0004】(1) 商品の売買取引の流通が複雑化する。また、買手業者は、希望する商品を得るためには現場(卸売市場や卸売会社等)に実際に出向いて行く必要があるが、このとき、希望する商品が販売されていればよいが、販売されていない場合は無駄になってしまう。特に、生花等のような商品は、気象や災害等の自然条件の影響を受けやすいものであるため、予定のものが予定通りに販売されない場合が多々ある。したがって、買手業者にとっては、場当たりの仕入れとなる場合が多く、調達計画を立てることができない。

【0005】(2) 売手業者は卸売市場で商品の販売を行うが、その商品に買手がつかか、どのくらいの量を裁ききれるか等を事前に知ることができず、販売計画を立てることができない。また、裁ききれなかった商品(販売残商品、すなわち現品)については、例えば、その販売残商品から引荷分を除いた商品を更に販売し、その販売の結果、残った分を競りにかけることになるが、引荷や競りを考慮してこのような販売残商品の取引を行うことは、非常に計画が立てにくく、特に、販売対象が上述したような生花のように、ある期間が過ぎてしまうと品質が低下してしまう商品である場合、荷受、競り準備、競り後の分荷によりダメージを受けるため、そのダメージが大きいく、価格を下げる必要が出てくる。特に、大量の商品を販売する場合には、その分受けるダメージが大きくなる。

【0006】(3) 買手業者は、複数種類の商品を大量に希望する場合が多いが、実際に卸売市場に出向いていかなければ、希望する商品が販売されているのか、また、それが大量に販売されているのか等を事前に知ることができない。このため、計画購入することができない。また、大量に商品を購入しようとすると、その卸売市場の需要が逼迫し、自分で価格をつり上げることになる。

【0007】(4) 売手業者は販売計画を立てることができないため、生産者側も生産計画を立てることができない。

【0008】そこで、本発明は、上記の欠点を除去するために成されたもので、計画的な商品の生産及び販売、計画的な商品の調達を可能とすることで、大量な商品を競り等の現品販売を含む多様な手段で販売する場合であっても、効率的な商品の売買取引を可能とする商品取引

装置、商品取引システム、及び該取引を行うための処理ステップをコンピュータが読出可能に格納した記憶媒体を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】斯かる目的下において、第1の発明は、複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報情報に基づいて、商品の売買の成約を決定するシステムにおける上記複数の端末装置の少なくとも1つの端末装置であって、上記購入情報に基づく予約相対取引の処理を行う第1の取引処理手段と、上記販売情報に基づく予約相対取引の処理を行う第2の取引処理手段と、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて、双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理を行う第3の取引処理手段と、上記第1～第3の取引処理手段の少なくとも何れかの実行で発生した販売残商品に対する取引の処理、或いは、上記第1～第3の取引処理手段によらない販売のための取引の処理を行う第4の取引処理手段とを備えることを特徴とする。

【0010】第2の発明は、上記第1の発明において、上記第4の取引処理手段は、上記第1～第3の取引処理手段による取引処理中或いは処理後に、上記販売残商品に対する緊急取引処理を行う手段を含むことを特徴とする。

【0011】第3の発明は、上記第2の発明において、上記第4の取引処理手段は、上記第1～第3の取引処理手段による取引処理或いは上記緊急取引処理の実行の前或いは実行中に、特定される競りの対象商品の指定乃至管理を行う手段を含むことを特徴とする。

【0012】第4の発明は、上記第1の発明において、上記第4の取引処理手段は、上記第1及び第2の取引処理手段の実行で発生した販売残商品、又は、上記第3の取引処理手段の実行で発生した販売残商品に対する取引の処理を行うことを特徴とする。

【0013】第5の発明は、上記第1の発明において、上記第3の取引手段は、上記販売情報に含まれる商品に関する情報の任意の情報を取引条件として特定する特定手段を備えることを特徴とする。

【0014】第6の発明は、上記第1の発明において、上記第2の取引手段で発生した未成約商品の販売情報を、上記第3の取引手段での上記販売情報とする複写手段を備えることを特徴とする。

【0015】第7の発明は、上記第1の発明において、各取引処理を実行するためのアイコン機能を有する表示手段を備えることを特徴とする。

【0016】第8の発明は、上記第1の発明において、上記商品は、商品毎に想定される期間経過後には価値がなくなる、或いは、減少するものであることを特徴とする。

【0017】第9の発明は、複数の端末装置から出力さ

れる商品の売買取引のための販売情報と購入情報から商品の売買の成約を決定する商品取引システムであって、上記複数の端末装置の少なくとも1つの端末装置は、請求項1～8の何れかに記載の商品取引装置であることを特徴とする。

【0018】第10の発明は、複数の端末装置とホストが相互通信することで、上記複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報から商品の売買の成約を決定する商品取引システムであって、上記端末装置は、送られてきた情報をブラウザ機能により画面表示し、その画面上の情報に基づいて行われたユーザからの操作に従って情報を出力し、上記ホストは、上記購入情報に基づく予約相対取引の処理を行う第1の取引処理機能と、上記販売情報に基づく予約相対取引の処理を行う第2の取引処理機能と、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて、双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理を行う第3の取引処理機能と、上記第1～第3の取引処理機能の少なくとも何れかの実行で発生した販売残商品に対する取引の処理、或いは、上記第1～第3の取引処理機能によらない販売のための取引の処理を行う第4の取引処理機能とを有することを特徴とする。

【0019】第11の発明は、複数の端末装置から出力される商品の売買取引のための販売情報と購入情報に基づいて、商品の売買の成約を決定するための取引処理ステップを実行するプログラムを格納した記憶媒体であって、上記取引処理ステップは、上記購入情報に基づく予約相対取引の処理を行う第1の取引処理ステップと、上記販売情報に基づく予約相対取引の処理を行う第2の取引処理ステップと、複数の上記購入情報と複数の上記販売情報を突き合わせて、双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引の処理を行う第3の取引処理ステップと、上記第1～第3の取引処理ステップの少なくとも何れかの実行で発生した販売残商品に対する取引の処理、或いは、上記第1～第3の取引処理ステップによらない販売のための取引の処理を行う第4の取引処理ステップとを含むことを特徴とする。

【0020】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について図面を用いて説明する。

【0021】本発明に係る商品取引システムは、例えば、図1に示すような生花取引システム100に適用される。

【0022】生花取引システム100では、上記図1に示すように、生花の市場管理を行うサーバ側の端末装置101と、複数の売手業者側の端末装置111～114及び141、複数の買手業者側の端末装置121～123及び151、及び中卸業者側の端末装置131とが、WAN161を介して互いに通信可能に接続された構成としている。

【0023】ここで、複数の売手業者の中には、大手業者（大手売手）や小口の業者（小口売手）も含まれており、また、複数の買手業者の中にも大手業者（大手買手）や小口の業者（小口買手）も含まれているものとする。そして、サーバ側、売手業者側、買手業者側、及び中卸業者側の各端末装置は、例えば、中央処理装置（CPU）、キーボード、マウス、表示器、通信器、及び本システムの処理プログラムが予め格納されたメモリ等を備えたパーソナルコンピュータ（パソコン）からなり、該メモリの処理プログラムをCPUにより読み出して実行することで、後述する種々の処理を行うようになされている。

【0024】尚、サーバ側、売手業者側、買手業者側、及び中卸業者側の各端末装置は、本発明に係る商品取引装置を適用したものである。また、ここでは、WAN161を介してのサーバ側と各業者側の接続構成としたが、これに限らず、ホストコンピュータと端末装置の接続構成でもよいし、サーバ側とクライアント側の接続構成でもよい。さらに、複数の売手業者側の端末装置111～114、及び複数の買手業者側の端末装置121～123は個々に、WAN161を介してサーバ側と接続された構成としてもよい。また、上記図1中の171～173は、生産者であり、大手売手業者111とは通信で接続されておらず、電話やファックス等で連絡するようになされている。

【0025】上述のような生花取引システム100は、買手側から発生する商品の情報に基づいた各業者間の取引（注文情報に基づいた取引）、売手側から発生する商品の情報に基づいた各業者間の取引（販売情報に基づいた取引）、及び複数の買手側から発生する注文情報と複数の売手側から発生する販売情報に基づいた複数の各業者間の取引（複数の注文情報と複数の販売情報に基づいた取引）を含む生花の売買取引を、生花取引システム100に加入している各業者（参加者）側の端末装置上で行うようになされている。

【0026】尚、ここでの“商品の情報”は、例えば、数量、単価、情報入力時刻、及び属性データを含み、該“属性データ”は、期日、期限、品種、及び色等を含む。また、ここでの“生産者”には、実際の生産者から販売の委託を受けている販売代理人、販売卸業者、販売エージェント、或いは輸入業者等も含まれる。

【0027】そこで、まず、サーバ側の端末装置の内部構成、及び各業者側の端末装置の内部構成について、図2を用いて説明する。

【0028】上記図2に示すように、サーバ側の端末装置300は、種々の情報の受信及び送信（配信）を行うための情報受信配信機能310と、アプリケーション機能（APP機能）としての取引処理及び価格形成機能321、価格予想機能322、システム運用管理機能323、個人別マーケット分析機能324、及び個人別デー

タ配信管理機能325と、トランザクションデータやマスターデータを記憶すると共に各種処理に必要なデータを記憶するための記憶機能(データベースメモリ:DBM)330とを有している。取引処理及び価格形成機能321とは、注文情報に基づいた取引、販売情報に基づいた取引、及び複数の注文情報と複数の販売情報に基づいた取引等、各種の取引処理を行うための機能である。価格予想機能322とは、詳細は後述するが、各業者間での取引において、取引対象となる生花の価格の変動を予測するための機能である。システム運用管理機能323とは、サーバ側の端末装置を運用して生花取引システム100を制御管理するための機能である。個人別マーケット分析機能324とは、参加者の登録を行うと共に、その参加者が実際に取引した日時、その取引後の取引状況、及び取引された生花についての情報(生花の種類や取引価格等)等、各参加者が行った取引に関する情報をDBMに記憶させ、その記憶情報を基に、例えば、取引される生花の季節別の傾向値、値段の高低、各参加者の今後の取引傾向(売買動向)等を分析するための機能である。個人別データ配信管理機能325とは、各参加者に対するデータ配信管理についてフィルタリングをかける機能であり、例えば、売手側や買手側の各参加者の業態(中卸や量販店等)、或いは商品の引き渡しの条件、或いは各参加者に提供されるサービスの内容等によって、配信データの全体或いは一部の表示を行ったり行わなかったりする機能、或いは上述の理由により各参加者側毎で表示される全体或いは一部の内容を変更させたりする機能である。

【0029】一方、各業者側の端末装置400は、種々の情報の受信及び配信を行う情報受信配信機能410と、WWWブラウザ等によるユーザインターフェース(I/F)機能420と、アプリケーション機能としての自己勘定管理機能431及び連携機能432と、トランザクションデータやマスターデータを記憶すると共に各種処理に必要なデータを記憶するための記憶機能440とを有している。自己勘定管理機能431とは、先の取引により発生する支払いの管理等、参加者側で処理する自己勘定を管理するための機能である。連携機能432とは、直属する小売店側のシステムや社内販売システムと連携して、先の取引についての情報を通知する等、参加者側に所属する側と連携可能とするための機能である。

【0030】尚、ここでは、業者側の端末装置400に自己勘定管理機能431、連携機能432、及び記憶機能440を設けるようにしたが、これらの機能については、必ずしも業者側の端末装置400に設ける必要はなく、業者側の端末装置400に設ける代わりに、サーバ側の端末装置300に設けるようにしてもよい。

【0031】つぎに、生花取引システム100による各種処理の流れ、特に、(A)注文情報に基づいた取引処

理、(B)販売情報に基づいた取引処理、及び(C)複数の注文情報と複数の販売情報に基づいた取引処理の流れについて説明する。尚、(A)、(B)、及び(C)の各取引処理についての以下の説明では、例えば、買手業者と売手業者間の取引とする。

【0032】ここで、各業者の端末装置には、例えば、インターフェース機能としてのWWWブラウザにより、サーバ側を介して送られてくる各種データが画面表示されるものとする。そして、端末装置の使用者が、画面上で操作することで、処理が進められるものとする。そこで、ある業者が生花取引システム100を利用して、(A)、(B)、及び(C)の各取引処理等を行う場合、まず、自端末装置でサーバ側にアクセスすることで、装置には、例えば、図3又は図4に示すようなトップ画面が表示される。上記図3は、買手となる場合に表示されるトップ画面であり、「注文」、「予約」、「一般I」、「一般II」、「成約・着荷」、「集統計」、「お知らせ」、「終了」等、各種項目が表示される。一方、上記図4は、売手となる場合に表示されるトップ画面であり、「注文」、「予約」、「複写」、「一般」、「成約・着荷」、「集統計」、「お知らせ」、「終了」等、各種項目が表示される。尚、これらの表示は、アイコン機能と同様に、その文字部をクリックすると、その文字部に対応した処理が実行されるようになされている。ここでは文字表示としているが、これに限らず、絵柄等で表示するようにしてもよい。そして、端末装置の使用者は、マウス等を用いて各項目を選択的に指定(クリック)する。これにより、このとき指定された項目に対応した処理が実行される。例えば、(A)の取引を行う場合には「注文」の項目、(B)の取引を行う場合には「予約」の項目、(C)の取引を行う場合には「一般I」又は「一般II」、或いは「一般」の項目を選択して指定する。

【0033】(A)注文情報に基づいた取引処理
(第1の取引:注文情報に基づく予約相対取引)本取引処理は、例えば、図5に示すような流れに従って実行される。

【0034】買手業者は、自端末装置のトップ画面(上記図3)上で「注文」の項目を選択し指定する。これにより、装置は、注文情報入力可能状態となる。そして、買手業者は、調達(仕入)計画に従って、希望する購入日、生花の品目、品種、色、等階級、産地、総本数、及び価格等の購入希望情報である注文情報をキーボード入力する。この情報は、サーバ側に送られる。この結果、例えば、図6に示すような注文情報一覧がサーバ側で作成され、買手業者側の端末装置で画面表示される。そして、この画面(注文情報一覧画面)上には、買手業者が入力した注文情報の他、「合計本数」、未選定合計本数、及び「合計金額」等の情報も表示される。尚、この「合計本数」、未選定合計本数、及び「合計金額」

等は、サーバ側で計算して得られ、端末装置に送信されて表示される。このようにして、買手業者は、自端末装置上で調達(仕入)計画に従った生花の注文を行う。

【0035】売手業者は、自端末装置にて、買手業者が発した注文情報を画面上で参照することで、販売(生産)計画に従って、買手業者が希望する生花を出荷可能であるか否かを判断し、出荷可能であれば、それを応募情報としてキーボード入力する。この応募情報は、サーバ側に送られる。このようにして、売手業者は、買手業者が発した注文情報に対して、自端末装置上で応募する。尚、売手業者は、買手業者が希望する総本数全てに対して応募することもでき、その一部に対して応募することもできる。或いは、買手業者が希望する総本数より多い本数を応募することもできる。

【0036】買手業者は、自端末装置にて、上記図6に示した注文情報一覧を画面上で再度参照する。このときの注文情報一覧には、サーバ側により、売手業者が発した応募情報が反映されている。具体的には、例えば、注文情報一覧の“応募”欄には、注文情報に対して応募した売手業者の注文件数が表示されるようになされており、買手業者は、“応募”欄部分の隣の“応”のアイコン部をマウスで指定することで、注文情報に対して応募した売手業者の詳細情報が参照できるようになされている。このような注文情報一覧画面を買手業者が参照することで、買手業者は、注文情報に対して応募した売手業者のなかから希望する売手業者を選択して予約し、それを発注情報としてキーボード入力する。この発注情報は、サーバ側に送られ登録される。

【0037】そして、サーバ側にて、買手業者と売手業者の成約が成り立つと、サーバ側から売手業者側に対して成約通知が送られ、売手業者は、これを受け、買手業者との取引が確定したことを認識する。尚、この成約通知を送らずに売手業者が自端末装置にて、例えば、成約情報一覧を画面上で参照することで、買手業者の取引が確定したことを認識するようにしてもよい。

【0038】このとき、買手業者側の上記図6に示した注文情報一覧には、この成約が“未選定”欄に反映される。例えば、ある希望する生花の希望総本数が100本であり、この成約で100本全てで確定した場合、未成約本数である未選定本数は0本となる。また、100本のうち40本が確定した場合、未選定本数は60本となる。また、売手業者が応募した本数が、希望する総本数より多い場合には、未選定数のマイナス表示を許すことにより、未選定本数がマイナス本数(−60本等)となる。

【0039】尚、ここでは、買手業者の注文情報に対して各々の売手業者が応募した後、買手業者が該応募情報を参照して所望する売手業者を選択するようにしたが(上記図5参照)、例えば、買手業者は、このときの選択を行わずに、再度新たな注文情報の追加登録するよう

にしてもよい。或いは、以前の注文情報を削除して新たな注文情報を登録するようにしてもよい。この場合、更新された注文情報に対して、上述したような売手業者の応募が繰り返して行われることになる。また、買手業者が上記の応募情報を選択する際、それらの応募情報の全て或いは一部を選択可能、或いは拒絶可能とするようにしてもよい。

【0040】(B)販売情報に基づいた取引処理
(第2の取引：販売情報に基づく予約相対取引)本取引処理は、例えば、図7(B)に示すような流れに従って実行される。

【0041】売手業者は、自端末装置のトップ画面(上記図4)上で「予約」の項目を選択し指定する。これにより、装置は、販売情報入力可能状態となる。そして、売手業者は、希望する生花の品目、品種、色、着荷日、等階級、産地、生産者名、箱数、及び価格等の販売希望情報である販売情報(出荷情報)をキーボード入力する。この結果、例えば、図8に示すような出荷情報一覧が作成され、画面表示される。そして、このような販売情報は、サーバ側に送られる。このようにして、売手業者は、自端末装置上で生花の販売を行う。

【0042】買手業者は、自端末装置にて、例えば、図9に示すような、売手業者が発した販売情報を画面上で希望商品を検索し参照することで、希望する品の箱数等を購入登録情報としてキーボード入力する。このとき、希望する箱数の一部の登録も行うことができる。例えば、出荷情報の残箱数が50箱であり、買手業者が本来希望する箱数は20箱であるが、そのうちの10箱のみを登録することもできる。そして、このような購入登録情報は、サーバ側に送られる。このようにして、買手業者は、売手業者が発した出荷情報に対して、自端末装置上で購入登録する(タイプ1)。

【0043】売手業者は、自端末装置にて、買手業者の登録状況を画面上で参照して判断し、買手業者と成約する。

【0044】尚、買手業者側において、上述したような購入登録を行う際(タイプ1)、購入価格の指定を行って、これを購入登録情報とすることもできる(タイプ2)。この場合、例えば、売手業者側の端末装置において、複数の買手業者から指定された各購入価格に基づいて、適切な買手業者、例えば、最も購入価格の高い買手業者を自動的に決定するようなアルゴリズムを実行させるようにしてもよい。また、販売情報で残数10箱に対し、買手業者は、購入登録情報として、例えば、6箱とし、且つ、6箱以下でも購入する旨の情報を登録することもできる。これにより、残数10箱に対して、甲乙2名の買手業者が各々6箱の購入登録しても、甲が6箱以下でも購入するという情報であれば、乙に6箱、甲に4箱、という成約も可能となる。

【0045】(C)複数の購入情報及び複数の販売情報

に基づいた取引処理

(第3の取引:複数の購入情報と複数の販売情報を同時に双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引)本取引処理は、例えば、上記図7(C)に示すような流れに従って実行される。

【0046】ここで、本取引処理は、2つの取引処理(C1の取引処理、C2の取引処理とする)に分けられ、これらの2つの取引処理が、買手となる場合のトップ画面(上記図3)の「一般I」と「一般II」に対応する。そして、C1の取引処理とC2の取引処理は、例えば、買手業者が上述したような購入登録する際に、詳細は後述するが、売手業者側が発した販売情報に対して行う購入登録の方法が異なる。

【0047】そこで、売手業者は、上述した(B)の取引処理の結果、販売情報として発した数量を全て裁ききれなかった場合、具体的には、ある生花を100箱、販売希望したにも関わらず、そのうちの60箱しか買手業者と成約できなかった場合、40箱が残ってしまう。このような販売漏れの生花(未成約の生花)がある場合には、売手業者は、自端末装置にて、未成約の生花を検索し、その情報を得て、トップ画面(上記図4)の「複写」項目を選択し指定することで、販売漏れの生花、すなわち(B)の取引処理での生花のうち販売漏れの生花についてを、本取引処理に移行する。そして、売手業者は、販売漏れの生花について、(B)の取引処理と同様にして、販売情報をキーボード入力する。また、このとき、新規に販売希望する生花があれば、それについての販売情報も入力する。このときに、下限価格情報(販売下限価格値)も入力する。そして、このような販売情報は、サーバ側に送られる。また、他の売手業者も同様にして各々、自端末装置にて、販売希望する生花の販売情報を入力する。そして、各売手業者の販売情報も、サーバ側に送られる。したがって、サーバ側には、複数の売手業者の販売情報が存在することになる。尚、トップ画面(上記図4)の「複写」による処理についての詳細は後述する。

【0048】買手業者は、自端末装置にて、複数の売手業者が発した販売情報を画面上にて参照し、希望する条件に合った販売情報に対して、(B)の取引処理と同様にして、購入登録するが、このとき、上述のC1の取引処理、或いは、C2の取引処理で購入登録する。すなわち、C1の取引処理で購入登録する場合、買手業者は、自端末装置のトップ画面(上記図3)上で「一般I」を選択し指定する。これにより、装置は、上述のように、複数の売手業者が発した販売情報の参照可能状態となり、購入登録可能状態となる。ここでの購入登録は、例えば、希望する生花の「品目」及び「色」のみの条件を特定できるようになされている。一方、C2の取引処理で購入登録する場合、買手業者は、自端末装置のトップ画面(上記図3)上で「一般II」を選択し指定する。

これにより、装置は、C1の取引処理と同様に、複数の売手業者が発した販売情報の参照可能状態となり、購入登録可能状態となるが、ここでの購入登録は、例えば、希望する生花の「品目」及び「色」のみならず、「品種」や「等階級」等、その他の詳細な条件を特定できるようになされている。また、買手業者は、このような詳細な条件を複数の販売情報に対して特定できるようになされている。そして、このような購入登録情報は、サーバ側に送られる。また、他の買手業者も同様にして各々、自端末装置にて、複数の売手業者が発した販売情報を参照して、C1或いはC2の取引処理で購入登録する。したがって、サーバ側には、複数の売手業者が発した販売情報と、複数の買手業者が発した購入登録情報とが存在することになる。

【0049】サーバ側では、所定の成約決定アルゴリズムによる成約決定処理により、複数の売手業者が発した販売情報と、複数の買手業者が発した購入登録情報とに対して、双方の条件の折り合うものから順次成約(価格)を決定する。尚、ここでの成約決定アルゴリズムは、例えば、販売下限価格の条件を満たし、且つ、購入価格の高い順、購入情報の入力時間の早い順等により成約を決定するものである。この成約決定についての情報は、売手業者側及び買手業者側に通知される。これにより、売手業者及び買手業者は各々、自端末装置にて、成約決定について認識する。

【0050】尚、上述した成約決定アルゴリズムでは、購入希望価格の高い順や情報入力力の早い順に成約決定するようにしたが、これに限らず、例えば、購入希望数量の多い順や過去の取引規模などの因子により予め決められた優先順位に従って成約決定するようにしてもよい。或いは、購入希望数量の一部でも販売残数があれば購入したいという要求をも許容して、これを優先順位決定に反映させて成約決定してもよい。したがって、例えば、購入希望価格の高い順に成約決定する場合で、同じ価格の購入情報が存在した場合、それらの中でさらに数量の多い順や、情報入力力の早い順、或いは上述の購入希望数量に欠けが存在した場合の購入許可など、買手業者側の購入条件に許容範囲の広いもの、などの一部或いはこれらの組み合わせのアルゴリズムを用いるようにしてもよい。また、対象商品の条件許容度が高い(条件が緩い)場合に、(C)の取引処理へ移行し、許容度が低い(条件が厳しい)場合には、(C)の取引処理に移行しない、というようなアルゴリズムを付加するようにしてもよい。

【0051】また、売手業者が発する販売情報中に下限価格情報(販売下限価格値)を含むようにしたが、下限価格情報を「0」(ゼロ)とし、完全な販売委託方式にしてもよし、下限価格情報の代わりに別のパラメータを用いるようにしてもよい。例えば、販売最低本数の情報を用いるようにしてもよい。

【0052】また、C1及びC2の取引処理での条件入力(C2では詳細は条件入力、C1では該条件を緩和した条件入力)を、買手業者が決定して行うものとしたが、例えば、システム内で予め各々の項目(「品種」、「品目」、「色」等)及びその内容(例えば、項目「品目」であれば、「菊」、「バラ」等の内容)を設定しておき、その中から買手業者が所望する項目及びその内容(条件)を指定するようにしてもよい。具体的には例えば、取引対象商品が野菜であった場合、「品種」、「規格」のみの条件と、この「品種」、「規格」に産地・生産者名の条件とを予めテーブル等で用意しておく。また、航空チケットの場合には、フライト日と区間のみの条件と、これに航空会社名或いは具体的な便名(複数も可)等の複数の条件を予め用意しておく。これにより、買手業者は、多様な条件の設定を行うことができる。

【0053】以上、生花取引システム100による(A)、(B)、及び(C)の各取引処理の流れについて説明した。

【0054】つぎに、上述したサーバ側の端末装置が有する「価格予想機能」について具体的に説明する。

【0055】この価格予想機能とは、上述したような(A)、(B)、及び(C)等の各取引において、取引対象となる生花の価格の変動を予測するための機能であり、この機能により、市場運用(管理)者は、自端末装置(サーバ側の端末装置)上で価格を容易に予測することができる。

【0056】すなわち、図10に示すように、サーバ側の端末装置において、記憶機能(DBM)には、個人別マーケット分析機能により種々のデータが記憶されると共に、取引時に発生した各種データが記憶される。このDBMに記憶された各種データを多変量解析処理等により解析し、その解析結果からモデルを生成する。そして、生成したモデルにより、そのときの市場状況に対する価格の変動等を予測する。このような価格予測は、生花の品目毎や季節等の予測条件に応じて行えるようになっている。

【0057】つぎに、上述したトップ画面(上記図4)の「複写」による処理について具体的に説明する。

【0058】「複写」による処理(複写処理)は、上述したように、売手側において、(B)の取引処理の結果、販売漏れがあった場合に行われる処理であり、この複写処理を実行することで、(B)の取引処理が(C)の取引処理に移行される。

【0059】すなわち、図11に示すように、(B)の取引処理の結果、成約された生花(成約出荷商品)と、未成約となった生花(未成約出荷商品)とが発生する。このときの商品の価格(販売価格)を x 、下限価格(最低希望価格)を y とする。これらの成約出荷商品及び未成約出荷商品の各情報は、サーバ側の端末装置に送られ、そのDBMに記憶される。

【0060】売手側は、自端末装置にて、サーバ側のDBMの記憶情報から生成された、例えば、図12に示すような、未成約出荷一覧の画面を参照することで、複写処理を実行するか否かを判断し、上記図4に示した画面の「複写」を選択し指定する。そして、売手側は、複写する商品を個別に選択し、複写するものを指定する。尚、このとき、未成約商品を全て一括して指定できるようにしてもよい。また、売手側は、販売価格 x を販売価格 x' ($x \neq x'$)、下限価格 y を下限価格 y' ($y \neq y'$)に各々変更する指定も行うことができる。これにより、サーバ側のDBMに記憶された不成立出荷商品の情報は、価格変更も含めて、(C)の取引処理での商品の情報とされる。また、このとき、売手側が新たに商品の登録(新規登録)を、販売価格 x_1' 、下限価格を y_1' として行った場合には、これらの情報も含めて、(C)の取引処理での商品の情報とされる。

【0061】そして、売手側は、自端末装置にて、例えば、図13に示すような販売情報一覧画面により、(C)の取引処理に移行した商品、新規登録した商品、及びそれらの情報を登録した日(情報登録日)を確認する。

【0062】尚、売手業者が発する販売情報において、下限価格の代わりに、上述したような他のパラメータ(販売最低本数等)を利用した場合、そのパラメータを変更することになる。

【0063】つぎに、生花取引システム100で行える他の処理として、集統計処理について説明する。

【0064】この集統計処理は、売手側の端末装置において、上記図4に示したトップ画面の「集統計」の項目が選択され指定されたときに実行される処理である。すなわち、売手側は、自端末装置にて、トップ画面の「集統計」の項目を選択し指定する。これにより、装置には、例えば、図14に示すような集統計情報表示一覧画面が表示される。この集統計情報表示一覧画面には、今後発生する予定の取引(既に決定している取引)についての情報、具体的には、先渡し(荷渡し)の日付、生花の平均価格、最高価格、最低価格、及び総本数等の情報を含む。これらの情報は、画面上で日付け、品目、品種等の条件を指定することで、指定された条件毎の情報を表示することもできる。このような画面により、売手側は今後の予定を把握することができる。また、同様に買手側も、自端末装置にて、トップ画面(上記図3)の「集統計」の項目を指定し、種々の条件を指定することで、買手側の今後の予定を把握することができる。

【0065】つぎに、生花取引システム100が有する他の機能について説明する。

【0066】ここで、上述した(A)、(B)及び(C)の取引処理により結局残ってしまった生花(販売残商品)、すなわち現品に対して行う取引処理として、先取りや引荷等の緊急な取引処理(緊急取引処理)があ

る。そこで、例えば、引荷処理とは、販売残商品は競りの対象となるが、このとき、その販売残商品から特定分のみ取り除く処理を言う。これは、緊急に生花が必要であった場合（葬儀等）等のために確保するためである。したがって、販売残商品から引荷した結果、残った商品が競りにかけられることになる。そこで、生花取引システム100は、この引荷処理及び競りにかける処理（現品販売処理）が画面上で行えるようになされている。このため、サーバ側の端末装置は、上記図2に示したアプリケーション機能としての各機能の他、例えば、図15に示すように、引荷処理を実行する引荷機能326と、引荷処理等により発生した残商品を販売するための現品販売機能327とを有している。

【0067】具体的には、まず、図16は、上述した（A）の取引処理、（B）の取引処理、及び（C）の取引処理の実行の前後或いは実行中に特定される競りの対象商品の指定乃至管理の処理を行う際の画面の流れを示したものである。尚、ここでの対象商品の指定乃至管理の処理は、引荷機能326や現品販売機能327等により実施される処理であり、先取り処理や引荷処理等の所謂緊急な取引処理の実行の前後或いは実行中に行うこともできる処理である。

【0068】上記図16において、配荷管理画面には、商品属性として“スプレー菊／2L／黄色”の生花について、残数量が20箱であり、既に決定した数量が（A）の取引処理では5箱、（B）の取引処理では10箱であることが示されている。

【0069】そこで、例えば、中卸業者等が、この配荷管理画面上で残数量20箱のうち5箱を引荷にあてようとする場合には、先ず、数量“0”の隣の四角部分ををクリックする。これにより、引荷処理の入力画面に移行する。このとき、配荷管理画面で一番上段のスプレー菊について引荷を行うことになるため、商品属性はそのまま複写されることになる。そして、この入力画面において、引荷で販売する相手の買手業者であるA社を入力し、単価と数量を、例えば、販売単価100円、箱数5、として入力する。この入力画面に対して実行コマンドを入力すると、引荷処理が実行され、これにより配荷管理画面では、引荷数量が5箱となり、残数量が20箱から15箱へと減少することになる。尚、先取り処理を行う場合も、上述の引荷処理と同様である。

【0070】また、例えば、上述の引荷処理の結果の残数量15箱のうち5箱を、上述した（B）の取引処理のなかでも売手業者が指定した条件に対して自動的に適切な買手業者を決定する取引処理（タイプ2の取引処理、ここでは（B2）の取引処理と言う）にあてようとする場合には、配荷管理画面において、残数量の数字の隣の四角部分ををクリックする。これにより、（B2）の取引処理の入力画面に移行する。このとき、配荷管理画面で一番上段のスプレー菊について引荷を行うことになるた

め、商品属性はそのまま複写されることになる。そして、この入力画面において、単価と数量を、例えば、90円、箱数5、として入力する。この入力画面に対して実行コマンドを入力すると、残数量15箱のうちの5箱を対象とした（B2）の取引処理が実行される。

【0071】また同様に、残数量15箱のうちの一部を上述した（C）の取引処理にあてようとする場合には、（C）の取引処理の入力画面において、単価と数量だけでなく下限値も、例えば、85円として入力する。この入力画面に対して実行コマンドを入力すると、このとき入力した箱数が指定した下限値のものとして登録されて、（C）の取引処理が実行される。

【0072】したがって、上述のような配荷管理画面により、競りの対象商品等の指定乃至管理を行うことができる。

【0073】尚、配荷管理画面の右側には、エレクトリック・コマース（EC）の取引処理の欄が設けられており、その下部には、（B2）の取引処理及び（C）の取引処理の欄が設けられている。そして、これらの（B2）の取引処理及び（C）の取引処理の文字部分をクリックすることで、各々の取引処理の入力画面に移行し、その取引処理を開始する等を行うことができるようになっている。したがって、この画面は、種々の取引全体を管理する画面、ともいうことができる。

【0074】上述のような配荷管理画面等により行われる処理の流れについて、図17及び図18を用いて説明する。

【0075】先ず、競りの前々日（12/1）時点では実際に出荷する生花の総量（入荷量）が不明の状態にある。これは、生花が、気象や災害等の自然条件の影響を受けやすいものであるためである。このとき、上述した（A）及び（B-タイプ1）の取引処理により、卸売市場側（ディーラ：地方市場、経済連、農協、商社、農事法人、輸入業者、卸業者等）と買手側間で取引が行われる（ $x_1 = 200$ 本の取引成立）。これにより、売手側は生産計画を立て、この生産計画に基づいて、生産者側は生産調整を行う。

【0076】次に、競りの前日（12/2）には、生産者側で出荷できる生花の総量が確定し、この情報（確定情報）が売手側に連絡される。売手側が生産者側からの確定情報を受けることで、出荷量が確定する（1000本出荷確定）。この情報（確定出荷量情報）は、売手側から卸売市場側に連絡される。卸売市場側は、出荷確定された1000本のうち取引成立した $x_1 = 200$ 本を除く残り800本に対して、引荷を行う（ $x_2 = 100$ 本引荷）。この結果の残り700本に対して、更に引荷を行う必要があったものとする（ $x_2' = 50$ 本引荷）、残量は650本となる。そこで、卸売市場側は、この残量650本に対して、上述した（B-タイプ1又は2）及び（C）の取引処理により、買手1と取引を行

う($x_3 = 500$ 本の取引成立)。したがって、この取引後の残量は150本となり、この150本が競りの対象となる。そして、これらの競りの対象商品の特定や、残商品等の管理は、上記図16に示したような配荷管理画面上での操作により行われる。

【0077】尚、ここでは、(A)、(B)、及び(C)の取引処理の結果、残った商品(現品)を更に取り引することとしたが、これに限らず、(A)及び(B)の取引処理の結果、残った商品を更に取り引(先渡し取引)することとしてもよい。

【0078】上述のような処理が実行される引荷機能326及び現品販売機能327により、例えば、仲卸業者と従来より取引のある業者(地方市場、経済連、農協、農事法人、商社、輸入業者、卸売業者等、従来から生産業者を持ち、従来では電話連絡等により取引を行っていた業者)も、この生花取引システム100に参加して、自端末装置上で全体の入荷量を把握しながら、引荷及び競り等を考慮した先渡し取引や現品取引等を効率的に行うことができる。

【0079】尚、上述した実施の形態では、対象商品を生花等の生鮮商品を一例として説明したが、これに限られることはない。航空チケットや他の交通機関のチケット、コンサートチケットのように、使用可能な期限が決まった商品にも適用することができる。例えば、航空チケットの場合、上述した生産者が航空会社に対応し、大手売手業者が航空会社の支店などの営業部門、或いは大手旅行会社などの販売エージェントに対応し、小口売手業者が各旅行代理店や航空チケットを扱うコンビニエンスストアなどの販売店に対応する。また、12月30日又は29日のXXX便を2席購入したい、或いは12月29日のA空港からB空港までのXXX便又はYYY便を2席購入したい等が(A)取引処理に対応し、12月29日から1月5日までのXXX便が α 円、YYY便が β 円で各々100席ずつある等の情報に基づいた取引が(B)取引処理に対応し、これらの条件に様々な広がりをもつ購入情報と販売情報を突き合わせて価格と数量の決定を行う取引が(C)取引処理に対応する。したがって、このように、航空チケット等の期限付きの商品や期日付きの商品についても、本発明は適用可能である。

【0080】また、本発明の目的は、上述した実施の形態のサーバ及び端末の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記憶した記憶媒体を、システム或いは装置に供給し、そのシステム或いは装置のコンピュータ(又はCPUやMPU等)が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読みだして実行することによっても、達成されることは言うまでもない。この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が上述した実施の形態の機能を実現することとなり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することとなる。

【0081】プログラムコードを供給するための記憶媒体

体としては、ROM、フロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモ리카ード等を用いることができる。

【0082】また、コンピュータが読みだしたプログラムコードを実行することにより、上述した実施の形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼動しているOS等が実際の処理の一部又は全部を行い、その処理によって実施の形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0083】さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された拡張機能ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部又は全部を行い、その処理によって上述した実施の形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0084】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、所謂先渡し取引をネットワーク上で可能にし、今迄にない販売及び調達の手続きを売手側及び買手側に与えることができるようになる。このため、従来になかった効率的な商品取引を行うことができる。具体的には、商品の売買の取引をシステム化して、買手側が発する注文情報(調達希望する商品の品目や種類、価格等)に基づく予約相対取引処理、売手側が発する販売情報(販売希望する商品の品目や種類、価格等)に基づく予約相対取引処理、及び複数の注文情報と複数の販売情報を同時に双方の条件の折り合うものから順次成約決定する取引処理を、端末装置の画面上で行えるようにした。また、買手側は、複数の売手が発した販売情報に対して、それに含まれる情報のうち任意の情報を取引条件として特定できるようにした。例えば、品目を特定、或いは、品目と共に種類までを特定できるようにした。さらに、上記各取引処理の実行により発生した販売残商品の取引、或いは、先取りや引荷等の緊急のニーズに基づき発生した取引(緊急取引)についても、端末装置の画面上で行えるようにした。このような構成とすることで、少なくとも次のような効果が得られる。

【0085】(1)買手側は、卸売市場等に出向く必要がなく、自端末装置にて、希望する商品が販売されているかを容易に把握することができ、希望する商品を容易に仕入れることができる。また、事前にこれを行うことができる。これにより、調達計画を立てることができる。

【0086】(2)売手側は、自端末装置にて、販売する商品に買手がつか、どのくらいの量を販売できるかを事前に把握することができる。これにより、販売計

画を立てることができるため、無駄な商品の発生も抑えることができ、特に、ある期間を過ぎると価値が無くなる生花等においては、その商品の鮮度保持も可能となる。また、大量の商品を多様な手段で販売することが可能となると共に、販売する商品の流れの一元管理が可能となり、大量の商品を効率的に販売する必要のある業者における業務効率を飛躍的に向上させることができる。例えば、各取引処理後に発生した販売残商品に対して引荷を行い、その引荷分を除いた商品から競り対象となる商品を事前に予測することもできる。これにより、全体の入荷量を把握しながら、引荷及び競り等を考慮した先渡し取引や現品取引等を効率的に行うことができる。

【0087】(3) 買手側は、自端末装置にて、大量の商品を希望する場合であっても、容易に品揃えすることができる。

【0088】(4) 売手側は、販売計画を立てることができるため、生産者側もそれに従って、生産計画を立てることができる。

【0089】(5) 商品の出荷前に売手側と買手側間でその商品を取引を行うことができる。

【0090】したがって、本発明によれば、計画的な商品の生産及び販売を行うことができ、また、計画的な商品の調達も行うことができ、これにより、大量な商品を競り等の現品販売を含む多様な手段で販売する場合であっても、効率的な商品の売買取引を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る商品取引システムを適用した生花取引システムの構成を示すブロック図である。

【図2】上記生花取引システムの各業者側及びサーバ側の端末装置の内部構成を示すブロック図である。

【図3】買手側のトップ画面を説明するための図である。

【図4】売手側のトップ画面を説明するための図である。

【図5】注文情報に基づく予約相対取引処理を説明するための図である。

【図6】上記取引処理において、注文情報一覧画面を説明するための図である。

【図7】販売情報に基づく予約相対取引処理を説明する

ための図である。

【図8】上記取引処理において、販売(出荷)情報一覧画面を説明するための図である。

【図9】上記取引処理において、売手側が発した販売情報の画面を説明するための図である。

【図10】販売価格予測機能を説明するための図である。

【図11】複写処理を説明するための図である。

【図12】上記複写処理において、未成約出荷一覧画面を説明するための図である。

【図13】上記複写処理において、販売情報一覧画面を説明するための図である。

【図14】集統計処理において、集統計情報表示一覧画面を説明するための図である。

【図15】上記サーバ側の端末装置の引荷機能及び現品販売機能を説明するための図である。

【図16】引荷等の指定乃至管理処理を説明するための図である。

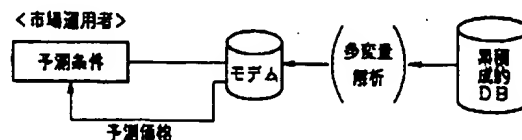
【図17】上記引荷機能及び現品販売機能により実行される引荷処理を説明するための図である。

【図18】上記引荷処理における商品の流れを説明するための図である。

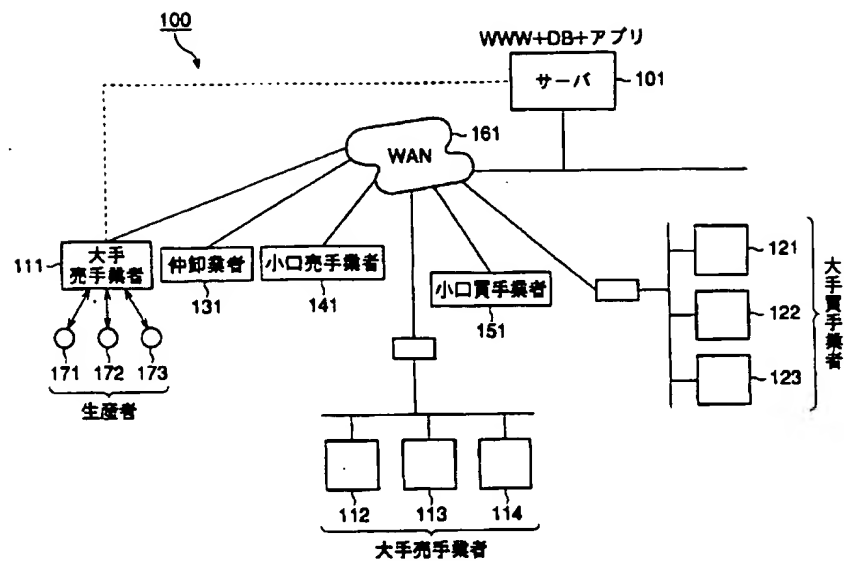
【符号の説明】

- 300 生花取引システムのサーバ側の端末装置
- 310 情報受信配信機能
- 321 取引処理及び価格形成機能
- 322 価格予想機能
- 323 システム運用管理機能
- 324 個人別マーケット分析機能
- 325 個人別データ配信管理機能 325
- 326 引荷機能
- 327 現品販売機能
- 330 記憶機能(データベースメモリ)
- 400 生花取引システムの業者側の端末装置
- 410 情報受信配信機能
- 420 インターフェース(I/F)機能
- 431 自己勘定管理機能
- 432 連携機能
- 440 記憶機能(データベースメモリ)

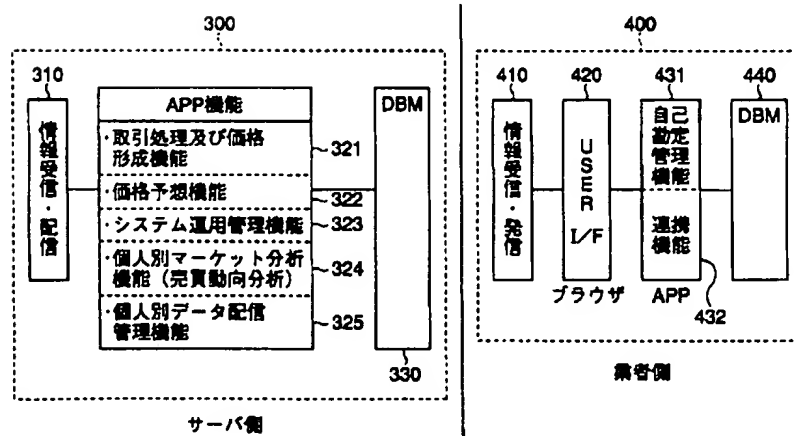
【図10】



【図1】



【図2】



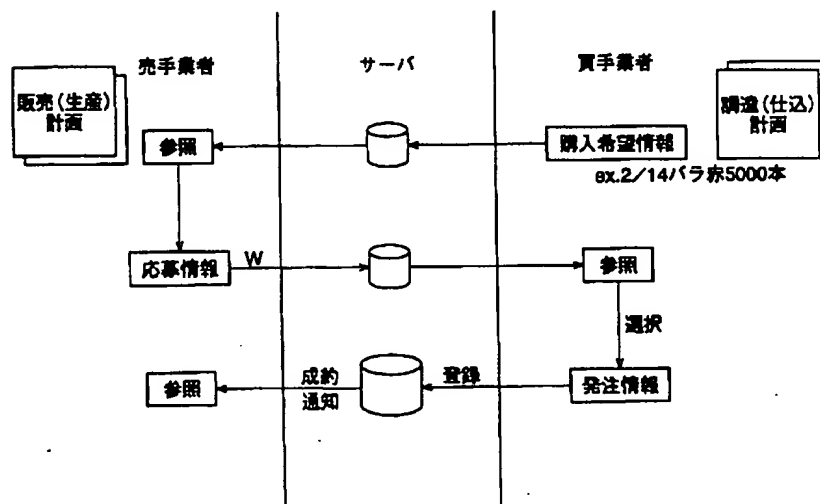
【図3】

| | | | | | | | |
|----|----|-----|------|-------|-----|------|----|
| 注文 | 予約 | 一般I | 一般II | 成約・簡荷 | 集統計 | お知らせ | 終了 |
| | | | | | | | |

【図4】

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|-------|-----|------|----|
| 注文 | 予約 | 複写 | 一般 | 成約・簡荷 | 集統計 | お知らせ | 終了 |
| | | | | | | | |

【図5】



【図6】

注文情報一覧画面

66件増徴しました。1-20を要示しています。合計本数：3,103,680本 采選定合計本数：2,959,740本 合計金額：309,905,900円

[illegible]

新規・変更

| | | |
|----|------|----|
| 樓宇 | 條件堅固 | 切規 |
|----|------|----|

環境
条件

切規

[illegible]

(B) 取引
販売 x
下関 y

(C) 取引
販売 x'
下関 y'

(B) 取引
販売

成約DB

不成約DB

参照

複写

Cへ移行の判断

Cの販売情報として登録

売手

売手が

- 参照
- 複写
- 新履歴登録
- 参照→新履歴登録する

新履歴録

販売 x_1'
販売 y_1'

販売 x
販売 y

↓ 変更
(Cの販売履歴のとき情報変更)

販売 x_1'
販売 y_1'

出荷情報—夏西番

8件増強しました。1-18を表示しています。合計金額: 121,550本 合計金額: 77,820,000円 残合計金額: 177,840本 残合計金額: 64,402,500円

| 通 | 品名 | 品目 | 種別 | 色 | 等級 | 生産者名 | 入数 | 数量 | 阿蘭西 | 単位 | 特選Y | cm | 9 | 緑付 |
|--------------------------|----------|------------------|----------------------|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| <input type="checkbox"/> | 07/08/01 | スターチス | シニユアータ (ムラサキ・ウスムラサキ) | 青 | 男 | 北海道 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 98 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/08/01 | スターチス | シニユアータ (ムラサキ・ウスムラサキ) | 紫 | 男 | 北海道 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 98 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/08/01 | デルフィニウム ペラドンナ系 | ペラドンナ フォルカーフリーデン | 深ブルー | 男 | 埼玉県 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 100 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/08/02 | カーネーション スプレー | バーバ9 ライトピンクパーバラ | 淡ピンク | 男 | 北海道 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 100 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/08/02 | キク 大輪 | 精葉 | 白 | 男 | 北海道 | 100 | 100 | 本 | 90 | 100 | 100 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/10/10 | シュウコンアスター 社管アスター | プラステリー | 白 | 男 | 宮城県 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 100 | 10 | 3 |
| <input type="checkbox"/> | 07/10/10 | スターチス ハイブリッド | ミスティー ブルー | 紫 | 男 | 北海道 | 100 | 100 | 本 | 85 | 100 | 99 | 10 | 1 |
| <input type="checkbox"/> | 07/10/10 | ヒマワリ | サンリッチ オレンジ | オレンジ | 男 | 埼玉県 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 100 | 10 | 2 |
| <input type="checkbox"/> | 07/10/31 | ヒマワリ | サンリッチ オレンジ | オレンジ | 男 | 埼玉県 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 100 | 10 | 2 |
| <input type="checkbox"/> | 07/10/31 | ヒマワリ | サンリッチ オレンジ | オレンジ | 男 | 埼玉県 | 100 | 100 | 本 | 100 | 200 | 100 | 10 | 2 |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/01 | キク 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 男2L | 愛知県 | 100 | 90 | 本 | 25 | 85 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/02 | キク 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 男2L | 愛知県 | 100 | 30 | 本 | 25 | 80 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/02 | スターチス | シニユアータ (ムラサキ・ウスムラサキ) | 紫 | 男2L | 和歌山県 | 100 | 110 | 本 | 65 | 120 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/02 | スターチス | シニユアータ (ムラサキ・ウスムラサキ) | 紫 | 男2L | 北海道 | 100 | 85 | 本 | 105 | 70 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/02 | デルフィニウム ペラドンナ系 | ペラドンナ フォルカーフリーデン | 深ブルー | 男2L | 北海道 | 50 | 10 | 本 | 110 | 150 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/02 | ヒマワリ | サンリッチ レモン | 赤芝 | 男 | 埼玉県 | 50 | 10 | 本 | 50 | 50 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/03 | キク 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 男2L | 愛知県 | 100 | 50 | 本 | 10 | 85 | 80 | | |
| <input type="checkbox"/> | 07/12/04 | キク 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 男2L | 愛知県 | 100 | 100 | 本 | 100 | 100 | 80 | | |

用 於 報 告 之 用

日付 年 月 日

新 規 集 件 取 消

☐ 營業
☐ 欠
☐ 入
☐ 出
☐ 出
☐ 新規・更新

【図9】

| | |
|--|--------------------|
| <input type="button" value="注文"/> <input type="button" value="印刷"/> <input type="button" value="在庫確認"/> <input type="button" value="在庫出"/> <input type="button" value="お知らせ"/> <input type="button" value="終了"/> | |
| 出荷/在庫情報一覧画面 | |
| 3件検索しました。1-3を表示しています。残合計本数: 36,000本 | |
| <input type="checkbox"/> 07/12/01 | バラ スタンダード 品目 |
| <input type="checkbox"/> 07/12/15 | カーネーション スプレー 品目 |
| <input type="checkbox"/> 07/12/15 | キク 大輪種 品目 |
| ロータローゼ (マアサミレッド) 秋の友 | 秋の友 |
| 生産者名 | 生産地 |
| 色 等価級 売り手 | 産地 |
| 赤 秀2L | 静岡県 |
| 赤 秀4L | 愛知県 |
| 白 秀 | 福岡県 |
| 入数 | 箱数 残箱数 単位 希望 Y cm |
| 80 | 20 20 本 160 70 |
| 100 | 500 300 本 80 100 |
| 100 | 100 500 本 150 100 |
| 検索 条件設定 | |
| 出荷/在庫情報検索画面 | 色 |
| 出荷日 | 産地 |
| 品目 | 規格 (cm) |
| 生産者等階級 | 規格 (cm) |

【図12】

複製 印刷 拡大 縮小 移動

不成熟の出荷情報一覧画面

72件検索しました。61-72を表示しています。合計本数：102,150本 合計金額：126,203,380円 機合計本数：78,060本 機合計金額：124,749,830円

| 出荷日 | 品目 | 品種 | 色 | 等級 | 産地 | 生産者名 | 人数 | 箱数 | 箱重(kg) | 箱容(L) | 箱容(cm) | 積付 | 切荷 | 出荷番号 | 備考 |
|----------|----------|----------------|-----|----|-----|------|-----|----|--------|-------|--------|----|----|------------|----|
| 97/07/28 | ユリ 鉢植百合 | 希 (のぞみ) テッポウユリ | 白 | L | 長野県 | | 100 | 10 | 100 | 25 | 100 | 1 | 1 | 0000000024 | 一精 |
| 97/07/28 | ユリ 鉢植百合 | 希 (のぞみ) テッポウユリ | 白 | 2L | 長野県 | | 100 | 13 | 100 | 80 | 100 | 1 | 1 | 0000000025 | |
| 97/08/04 | ユリ スプレー種 | アルプス | 白 | 1級 | 愛知県 | | 100 | 13 | 100 | 80 | 90 | | | 0000002266 | |
| 97/08/04 | ユリ スプレー種 | トウアーマリンSPギク | ピンク | 特級 | 愛知県 | | 100 | 13 | 100 | 80 | 90 | | | 0000002271 | |
| 97/08/04 | ユリ スプレー種 | トウアーマリンSPギク | ピンク | 1級 | 愛知県 | | 100 | 13 | 100 | 85 | 80 | | | 0000002273 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | 精露 | 白 | 系L | 愛知県 | | 200 | 30 | 200 | 70 | 80 | | | 0000002245 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | 精露 | 白 | 系M | 愛知県 | | 200 | 30 | 200 | 65 | 90 | | | 0000002249 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | 精露 | 白 | 1級 | 長野県 | | 100 | 30 | 100 | 70 | 90 | | | 0000002254 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 2級 | 長野県 | | 100 | 30 | 100 | 90 | 90 | | | 0000002256 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 特級 | 長野県 | | 100 | 30 | 100 | 27 | 80 | | | 0000002259 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 1級 | 長野県 | | 100 | 30 | 100 | 20 | 90 | | | 0000002261 | |
| 97/08/04 | ユリ 大輪 | サマーイエロー | 黄 | 2級 | 長野県 | | 100 | 50 | 100 | 50 | 90 | | | 0000002262 | |

複製 印刷 拡大 縮小 移動

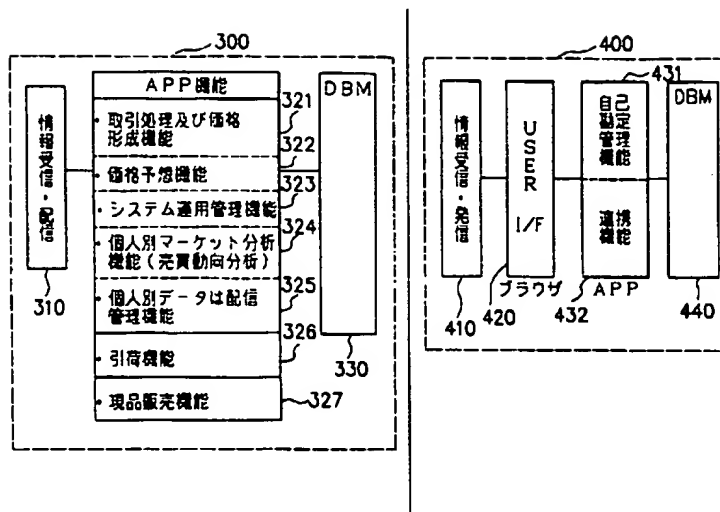
不成熟の出荷情報検索画面

○出荷日 ○情報登録日
○品目 ○品種 ○色
○生産者等種級 ○規格 (cm) ○生産者名 ○出荷番号

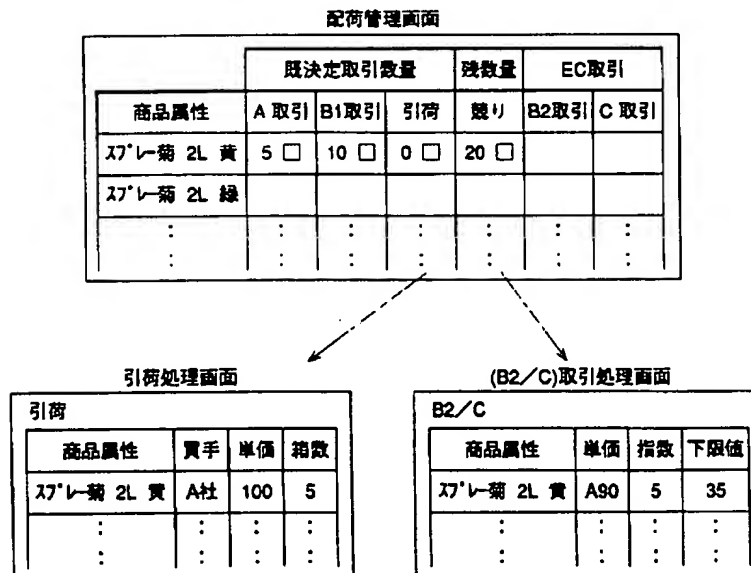
【図14】

| 注文 予約 標準 一般 価格・量販 価格計 お知らせ 終了 | | | | | | | | | |
|-------------------------------|-------|------|------|-------|----------|-------|------|------|-----|
| 集統計情報表示一覽画面 | | | | | | | | | |
| 集統計開始日 : 97/11/1 | | | | | | | | | |
| 日付 | 平均価格 | 最高価格 | 最低価格 | 総本数 | 日付 | 平均価格 | 最高価格 | 最低価格 | 総本数 |
| 97/11/01 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/17 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/02 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/18 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/03 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/19 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/04 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/20 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/05 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/21 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/06 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/22 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/07 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/23 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/08 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/24 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/09 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/25 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/26 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/27 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/12 | 115 | 123 | 100 | 1,270 | 97/11/28 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/29 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/11/30 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 97/12/02 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 97/11/16 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| 集統計情報検索画面 | | | | | | | | | |
| ●集荷日 | 97 | 年 | 11 | 月 | 1 | 日 | | | |
| ●品目 | キマ大崎第 | | | | | ○品種 | | | |
| ○生産者等階級 | | | | | | ○産地 | | | |
| | | | | | | ●表示形態 | 表 | ▼ | |
| | | | | | | ●表示区分 | 日別 | ▼ | |
| | | | | | | ▼ | | | |
| | | | | | | 検索 | 条件取消 | | |

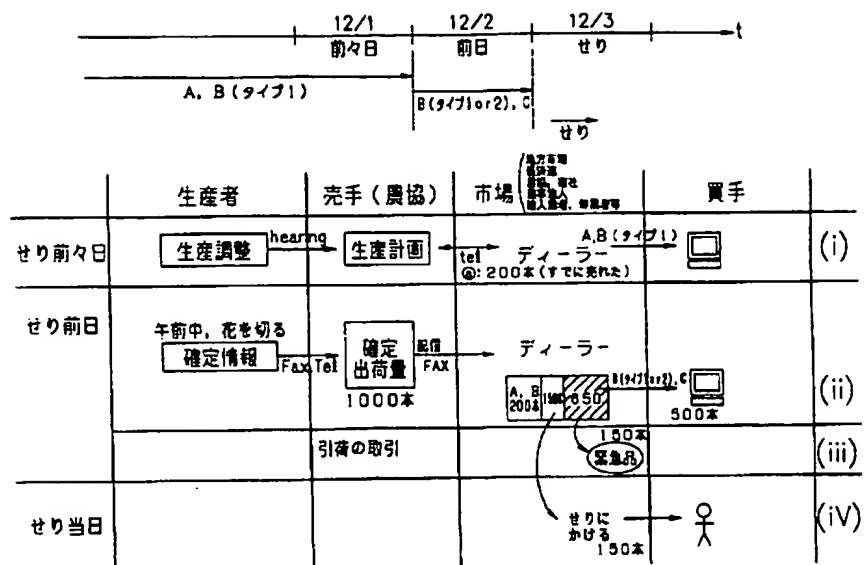
【図15】



【図16】



【図17】



【図18】

| | 入荷量 | A, B 1 (i) | 引荷 (iii) | 残りせり (iv) | B 2, C (ii) |
|-----------------|-------|-----------------|----------------|-----------------------------------|------------------|
| せり前々日 (12/1) | 不明 | X_1 (200本) | | | |
| せり前日 (12/2) | 1000本 | X_1 (200) | | $1000 - X_1$ (800) | |
| | | X_1 (200) | X_2 (100) | $1000 - X_1 - X_2$ (700) | |
| | | X_1 (200) | X_2 (50) | $1000 - X_1 - X_2 - X_3$ (650) | X_3 (500) |
| せり当日 (12/3) | | X_1 (200) | | $1000 - X_1 - X_2 - X_3$ (150) | せりに必要な 数量を決める |